

## グローバル制御社会におけるメディア・技術・資本主義の 新たな連関に関する学際的研究

Interdisciplinary research on the new articulation of media, technology, and capitalism  
in the global control society

水嶋 一憲 (MIZUSHIMA Kazunori)

本研究は、グローバル制御社会におけるメディア・技術・資本主義の新たな連関を学際的視点から解明するための社会理論の基盤構築を目指すものである。かかる目的を達成するために、2020 年度には、共著本を 1 冊、単著論文を 2 本刊行した。具体的には、「資本とメディア」について解析した拙稿を含む共著『クリティカル・ワード メディア論』（フィルム・アート社）を出版し、新型コロナウイルス禍とデジタル・メディア技術の連関等を分析した単著論文「コモン／ウイルス：解体するスペクタクル・デジタルメディア技術・コモンのケア」を『現代思想』の「感染／パンデミック」特集号に、またコロナ禍のさなかに再起動した BLM（ブラック・ライブズ・マター）運動について論じた単著論文「黙示と破局の狭間で：交差する階級闘争としてのブラック・ライブズ・マター」を、同誌「BLM」特集号に寄稿した。加えて、国内学会での個人報告を 1 件、国際シンポジウムでの個人報告を 2 件行なった。具体的にはまず、日本政治学会 2020 年度研究大会（Zoom 配信）のパネル「加速主義と資本主義、民主主義の未来」にて「戴冠せる加速主義者？：ポストコロナ時代の政治・技術・資本主義の連関分析に向けて」という題の招待報告を行なった。また、国際シンポジウム「COVID-19 時代のメディアと文化」（Zoom と YouTube 配信）にて「新ウイルス主義時代のメディアと集合性：東京 2020・プラットフォーム・マスク」という題の報告を、同じく国際ワークショップ「新型コロナ時代におけるデジタルメディア、創造性、資本主義」（Zoom と YouTube 配信）にて「ポスト・パンデミック／メディア時代の政治・技術・資本主義」という題の報告を行なった。

このように本研究は 2020 年度に、共著 1 冊・単著論文 2 本を刊行するとともに、国内外の学会やシンポジウムで招待報告を含めて 3 件報告することができた。それらを通じて本研究課題を予定通り進捗させることができたと判断される。

今後の研究の推進方策としては、2020 年度に構築・整備することのできた土台をもとに、単著・共著・訳書の刊行に向けた研究テーマの整理と原稿の執筆を進めるとともに、学会／シンポジウムでの報告や研究調査等を通じて、多様な分野の研究者たちとの交流を深め、そこで得られた知見を本研究のエラボレーションに活用する。と同時に、新型コロナウイルス禍の影響で国内外の研究調査や対面型のシンポジウムの開催については今後も実現困難な状況が続くものと予想されるので、研究協力者をはじめ多方面と連携しつつ、非対面型の研究推進方策をさらに探求していく必要がある。